赤ちゃんの四季（5）　平成14年夏

自然に親しむ

夏は、子どもにとって最も楽しい季節です。自分の小学生時代を振り返ってみても、夏休み中の生活だけは、いまでも鮮明に思い出すことができます。学校というしばりから開放され、伸び伸びと自分の意志で毎日を過ごすことができたからでしょう。私は、尼崎の関西労災病院の近く、武庫川のほとりに住んでいました。毎日、毎日、近所の子どもたちと武庫川に水遊びに出かけたり、トンボとり、イナゴとり、野球遊びに、朝早くから日が暮れるまで屋外で過ごし、真っ黒に日焼けしていました。

いまの子どもたちは、夏休みでも塾やおけいこでスケジュールがいっぱいに詰まっています。屋外で遊ぼうにも手軽な遊び場がないということも重なり、ゲームボーイ遊びで家の中に閉じこもり勝ちです。揚げ句に、陽に当たると皮膚ガンになるとの恐れから、子どもが日焼け止めクリームを塗っての屋外遊びとは。

かっては、赤ちゃんが風邪をひくから、クーラーの利いた部屋に寝かさないように、扇風機の風が直接に当たらないようにと指導したものです。ですから、赤ちゃんはみな汗疹を出していました。暑さでむずかる子どもを抱いて、屋外に連れ出し、夕涼みをしていました。熱帯夜には、車に子どもを乗せて六甲山山頂まで登り、夜半まで涼をとっていたことあります。

朝夕の陽射しの柔らかい時間帯には、赤ちゃんをぜひ屋外に連れ出してやって下さい。赤ちゃんが自然の中で生活できなくなったときは、人類の終熄です。オゾン層の破壊、地球の温暖化と確かに、人間の生活を脅かす変化が私たちの周りでは起こっています。科学技術文明は、自分たちの利便性のみを追及し、地下に埋もれていたエネルギーを次世代のことを考えることなく、無計画に消費してきた報いです。

地球環境とともに、人類を脅かすものは、戦争・テロです。昨年のニューヨークでのテロ、生物テロ、さらにはBSE問題と恐ろしい事件がいっぱいです。感染症の一番の被害者は子どもたちです。何とか早く手を打ちたいものです。